



100th Hamamatsu Nishi Anniversary High School

静岡県立浜松西高等学校
創立100周年記念誌

1924-2024



Commemorative Magazine

輝く未来へ

いつまでも受け継がれる“西山魂”

知・仁・勇



校訓

「知・仁・勇」

知：高い知性

仁：豊かな心

勇：たくましい力

校歌

作詞 内野 徳治
作曲 県 善三郎

一 銀くもりなき 大洋や
おの なた

東天耀う 芙蓉峰
かがよ ふ よう ほう

天与普き 西山に
てん よ あまね にし やま

聳ゆる麓 厳めしく
そび いらか

こもる力の 偉なるかな
い

土台に、次の100年へ。

- 1924(大正13)年4月4日 開校 静岡県立浜松第二中学校と称する
静岡県立浜松師範学校において入学式挙行
同校を仮校舎として授業を開始する
- 1925(大正14)年2月7日 第一期工事竣工につき校舎現在地に移転する
- 1930(昭和5)年5月21日 校旗制定
- 1944(昭和19)年8月1日 学徒動員による浜松航空分廠へ第5学年全員、鈴木織機株式会社へ第4学年及び第3学年の一部、石川鉄工所へ第3学年の一部、日本蓄音機株式会社へ第3学年の一部、大東機工株式会社へ第3学年の一部夫々出勤する
- 1945(昭和20)年3月28日 臨時措置により4年生全員繰上げ卒業
上級学校合格者も本校に委託生として動員先に留まる
- 1946(昭和21)年4月1日 中学校修業年限延長に関する措置要領により修業年限5か年に延長される
- 1947(昭和22)年4月1日 学校教育法施行に伴い併設中学校設置
在学生は旧制中学校第4、第5、新制中学校第2、第3学年に編成される
- 1948(昭和23)年4月1日 新学制施行に伴い静岡県立浜松第二高等学校として認可される
在校生は高等学校第1、第2、第3学年、中学校第3学年に編成される
- 1949(昭和24)年4月5日 本校通学区(小学区)が定められ男女共学制実施される
学校名を静岡県立浜松西高等学校と改められる
- 1951(昭和26)年12月30日 本校通学区が浜松市、浜名郡、引佐町に改正される
- 1968(昭和43)年11月30日 体育館竣工
- 1971(昭和46)年8月30日 プール竣工
11月30日 柔剣道場竣工
- 1972(昭和47)年2月15日 西山寮竣工、3月3日落成式挙行
- 1976(昭和51)年3月15日 記念館特別教室竣工
- 1991(平成3)年11月30日 校舎南棟、北棟竣工、渡廊下、体育器具庫竣工
- 1992(平成4)年5月25日 新校舎落成
- 1994(平成6)年11月4日 西山錬成館竣工
- 2002(平成14)年4月1日 静岡県立浜松西高等学校中等部が設置される
4月8日 静岡県立浜松西高等学校中等部開校、入学式を挙行
中高一貫教育を開始する
- 2005(平成17)年3月31日 理数科閉科となる
- 2024(令和6)年4月4日 開校100周年を迎える

二
真澄める空に 讃歌の
声朗らかに 打ち揚げて
清き尊き 若き日の
誇りゆたけく 睦みゆく
心の光 遠きかな

Hamamatsu Nishi High School 100th Anniversary

浜松第二中学校・浜松西高等学校卒業生数

29,097人 男子／22,754人
女子／6,343人

1929(昭和4)年3月～2024(令和6)年3月

100年の歴史と伝統を



Challenge!

西高自慢の先輩たちからのエール

ノーベル物理学賞を受賞した天野浩名古屋大学教授をはじめ、
国内外で活躍する企業のトップたちが100周年を機に母校に集結！
在校中の思い出を語り、次世代を担う後輩たちへ熱いメッセージを送る。

通学、授業、部活…

どのような3年間でしたか？

吉本(以下、司会) 今日懐かしい母校の教室に集まっていたきました。校舎は新しくなりましたが、高校時代とほぼ変わらない机と椅子に着席されています。まずは、一番長く西高の歴史を踏まえていらつしやる御室さんから思い出をお聞かせください。

御室 私が西高を卒業したのは、東京オリンピックが開催された昭和39年ですから、今日集まった中では一番古い人間になります。愛知県と長野県の境、佐久間ダムの近くで生まれ育ちました。浜松に出た時には、ずいぶん景色や雰囲気違ったので戸惑いましたね。大学は東京でしたが、自分の基礎は西高時代に築かれたと思っています。

斉藤 私は3年から西高に転入しました。ですから、在学中の思い出は少ないんです。



高23回卒

SAITO Kaoru

浜松西高校同窓会会長

遠州鉄道株式会社相談役
浜松商工会議所会頭

斉藤 薫 (さいとう・かおる)

1952年島田市生まれ。明治大学商学部卒業。1976年遠州鉄道株式会社入社。2013年同社社長、2022年同社会長。2024年同社相談役。浜松商工会議所会頭

進学で都会に出てても地元に戻り、地元で活躍してほしい。

失敗を恐れず、失敗から学び直接世界へ発信しよう。



高29回卒

SUZUKI Toshihiro

浜松西高校後援会会長

スズキ株式会社代表取締役社長
鈴木俊宏 (すずき・としひろ)

1959年浜松市生まれ。東京理科大学工学部機械工学科卒業。同大学院修士。日本電装株式会社(現デンソー)を経てスズキ株式会社入社。2015年より同社社長

い先生でした。そのあと、2年の時にできたボート部に入ったのですが、多分半年ぐらいで辞めたと思います。青木さんは確かボート部ですよ。

青木 そうです。我々が入った年に西高創立50周年記念としてボート部が設立されました。3年生の先輩方が初めてボートに乗って、わずか1カ月で試合に出ているのを見て、西高生はとて真面目で一生懸命やるんだな、という印象を持ちましたね。悔やまれるのは、学園祭に一度も出られなかったこと。ちょうどその日はいつも北高との定期戦だったんです。向こうは国体に出るほどのチームですから、断然強い。私は当時日本一汚いとされていた佐鳴湖によく落ちて「あの子は日本一汚い人」と言われていました(笑)。

司会 当時はそうでしたか。今はずいぶん佐鳴湖もきれいになりました。

鈴木 僕がいた頃の校舎は3階建てで、今のように立派ではなく、冷房もありま

せんでした。廊下に中間試験や期末試験の順位が張り出されましたよ。机は木製で椅子と二体になったものでした。僕らの時は3階だったのでここまで眺望は良くありませんでしたが、それでも授業がつまらないと窓の外を眺めていました。寝ているやつもいれば、早めに部活へ行く者もいたし。当時はバレーやバスケットが強く、全国大会に進む時代でした。

天野 スポーツといえば西高の頃、私は体力に自信があつたんです。当時住んでいた鹿谷町から自転車通っていましたが、全然苦になりませんでした。ところが同級生に神谷君というすごいやつがいて、誰も跳べないような棒高跳びのバーを軽々と越えるわけです。彼は確か高校総体で優勝しましたが、それを見て僕はスポーツをあきらめ、勉強し始めました。ちょうど担任が伊藤先生という数学の先生で3年間お世話になりました。ものすごくわかりやすく説明してくださったおかげで、ます

若いときに学んだことは生きていく上で精神的支柱となる。



高16回卒

MIMURO Kenichiro

浜松いわた信用金庫会長

御室健一郎 (みむろ・けんいちろう)

1945年浜松市生まれ。成蹊大学政治経済学部卒業。2005年浜松信用金庫理事長。2021年より浜松いわた信用金庫会長。前全国信用金庫協会会長。元浜松商工会議所会頭。前浜松西高同窓会会長

まず数学が好きになったんですね。というわけで、私は勉強で頑張りました(笑)。あと、現国の杉本完治先生も楽しい先生でした。森鷗外の研究をなさっていて、今でもお付き合いさせていただいています。

晝馬 私にとって思い出に残る先生は、あの体育会系の坂上先生ですね。本当におつかなくておつかなくて、教室を出る時からピシッとしていましたよ。みんな怖いので先生に近寄らないのですが、私だけサッカーの時に先生からボールを奪ったら「お前は退学だ！」と怒ったんです(笑)。その顔がニコニコして嬉しそうだったんですね。初めは怖いと思っても、本当は良い先生ということが多かったですね。それも西高らしいかなと。

中高時代の学びと失敗はその後にどう影響しましたか？

司会 西高に中部部ができる前に、校長

先生にお話を伺ったことがあります。その際、6年間じっくりかけて学ぶことで西高からも将来ノーベル賞をとる人間が出てくるんじゃないかと仰っていました。実際、天野さんはノーベル賞を受賞されたわけですが、やはり勉強したことで好きな道に進んだ結果、実を結んだのでしょうか。

天野 それがなかなかそうはいかなくてですね、私は共通二次試験の最初の世代だったのです。あのマークシート方式というのが苦手で人の好きが出てしまい、どうも選択項目にだまされてしまうんですよ(笑)。それで失敗してしまいましたね。数学科に行きたかったのですが、数学科は無理だと言われ、工学部の機械か電気に行けばつぶしが利くと言われて、アマチュア無線をやっていたこともあり、電子工学科に進んだわけです。

御室 初めて知りましたが、天野先生はノーベル賞受賞者ですから我々からすると

雲の上の人だと思っていましたが、意外と苦勞なさっているんだなあと感じますね。
鈴木 いやあ、失敗から学ぶことって実は多いですよ。失敗をそのまま放っておくから失敗で終わるのであって、それを生かせば成功なんですよ。

天野 ああ、確かにその通りですね。振り返ってみると、難しい問題に向き合う、ずっとやり続けるという姿勢は西高時代に身に付きました。それが大学に行っても生きたと思っています。

西高同窓生同士のつながりに
ついて教えてください

御室 卒業してから60年以上経ちますが、いまだに付き合っている連中がいます。もう、兄弟というか家族のような感じといますか。ご縁でそうなったわけですが、やはり一生の付き合いというのは良いものですね。



高27回卒

HIRUMA Akira

浜松ホトニクス株式会社社長

晝馬 明 (ひるま・あきら)

1956年浜松市生まれ。米国ニュージャージー州立ラトガース大学コンピュータ・サイエンス専攻卒業。1984年浜松ホトニクス株式会社入社。2009年同社社長。2022年同社取締役会長

若者のスタートアップ精神を地域ぐるみで支援する仕組みが大事。

鈴木 新春の集いの幹事やゴルフ会の幹事と、まあ、やらされるわけです(笑)。在学中に付き合ったことがある人もない人も、そういったところでネットワークができ、今でも親しくさせてもらっています。浜松は不思議な地域で、出身大学はあまり関係なく、出身高校を聞かれるほうが多い。「おつ、お前も西高か!」と、ちょっと北高をライバル視しながら仕事の話が進むこともあります(笑)。

斉藤 私は途中から浜松に住んだ人間ですが、不動産関係の仕事を通じて「西高効果」というのは感じますね。あの人もそうですか、という会話をすると、県外や海外に出ても結構地元に戻ってきているのかなと思います。

御室 そうですね、北高に比べると地元に戻ってきている人は多いかもしれません。

晝馬 面白いもので、北高の方は全国的に活躍されているのかもしれませんが、西高の卒業生って地元で相当良い地位に就

かれています方が多い気がします。弊社には「西山会」というのがあって、仲間意識が強いんですよ。

青木 うちもどれだけ西高卒業生がいるのか調べてみたのですが、165名いました。今回の募金でも自然とどこからともなく声が出て集まりました。浜松いわた信用金庫さんも西高卒業生は多いのではないのでしょうか。

御室 ええ、うちも同じくらいいますね。職員の中で西高出身が多い。

斉藤 当社遠鉄も西高卒業生が多いんじゃないかな。

鈴木 私の会社、スズキにも西高出身者は多いですね。

中高「貫教育」となった西高、 現役生徒へのメッセージ

斉藤 いま西高全体で1200人くらいいるんでしょうか。弦楽器、吹奏楽をやっている



高31回卒

AMANO Hiroshi

名古屋大学教授

天野 浩 (あまの・ひろし)

1960年浜松市生まれ。名古屋大学大学院工学研究科単位修得退学。2015年より名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センター センター長・教授。2014年、赤崎勇博士、中村修二博士と共にノーベル物理学賞受賞

生成AIが普及し世の中が進化しても「自分が主役になる」という気持ちをも！

医療・福祉で恵まれた浜松！
地域全体を視て、さらに一歩先へ。



高28回卒

AOKI Yoshiharu

社会福祉法人聖隷福祉事業団理事長

青木善治 (あおき・よしはる)

1957年浜松市生まれ。法政大学経済学部卒業。1980年社会福祉法人聖隷福祉事業団入職。2008年理事。常務執行役員就任。2021年より理事長

セージをいただきたいと思います。晝馬さんからお願いします。

晝馬 これからは、もっと世界の大学を目指す人が出てきてほしいと願っています。日本だけで競争するのではなく、天野先生のように世界に羽ばたく人間を目指してほしいと思っています。そして、もっと女性のエンジニアが増えて、活躍してほしい。そうなることで、日本の力は高まると思っています。また、若い人たちを見ていて「安定した会社だから入ろう」という考え方があることを残念に感じています。それは安定志向ですよ。失敗を恐れず、自分で会社を起こすといった人たちがどんどん出てきてほしい。

天野 世界の大学を目指すのもいいですが、ぜひ日本の大学も良いのを目指してほしいですね(笑)。今の大学生を見ていると、こう

天野 世界の大学を目指すのもいいですが、ぜひ日本の大学も良いのを目指してほしいですね(笑)。今の大学生を見ていると、こう



高34回卒

元SBS静岡放送アナウンサー
西高OB

司会 吉本 寿 (よしもと・ひさし)

1964年浜松市生まれ。在校中は放送部に所属。静岡大学教育学部卒。SBS静岡放送で約30年アナウンサーを務めた。現在は日本語教師として留学生などを指導。静岡市在住

message

各界で活躍の先輩6人にお会いして、皆さんのお人柄と柔和な表情に引き込まれました。“後輩思い”が多いと言われる浜西。これも良き伝統として、この先も受け継がれてほしいと思いました。

いうことをやりたい、と高い意識を持つて入ってくる人もいますが、まだやりたいことが見つからない、だから大学に入ってから見つめるんだ、という学生がかなり多い。それもいいのですが、私はぜひ「自分が主役になるんだ」という気持ちを持つてもらいたいと思います。世の中は進化し、生成AIも普及していくでしょう。だからこ



「西高自慢の先輩たち
からの地域へのエール」は、
2024年11月9日
中日新聞、静岡新聞に掲載



中等部の教室で、在校時の思い出や後輩たちへのメッセージを語り合う先輩たち



(天野)もっぱら帰宅部でしたが、3年間担任だった伊藤保先生のおかげで、数学が好きになりました。

(写真／昭和51年クラス写真)



(晝馬)地学部、ボート部所属。サッカーをしていた時、先生からボールを奪ったんですが、笑いながら怒られたことが印象に残っています。

(写真／ボート部、1979年卒業アルバムより)



(青木)ボート部所属。思い出の一番は常に練習をしていた佐鳴湖で、校舎よりも思い入れのある場所です。新川を通り浜名湖まで遠漕したこともありました。(写真／ボート部の練習)

楽しかったあの頃

思い出のアルバム



目指して頑張ってほしい。

そ二人が主役なんだという意識を持っていたかと思えます。

鈴木 一人が主役という考え方も大事ですが、やはりグローバルな視点から自分の生き方を考える時代だと感じています。世の中の人が何を望んでいるのかというのを突き詰め、自分の特徴を仕事に生かしていく。そのためには「失敗を恐れるな」と言いたいですね。今は、みんな横並びで失敗するとダメだとか、人と違うことをするといけないと言われる世の中になっています。でも実際は、成功から学ぶことよりも失敗から学ぶことが多いのです。Z世代と言われる若い人たちは、タイパ(タイムパフォーマンス)とかコスバ(コストパフォーマンス)とか言いますが、そんなことはどうでもいい。学生の間には、もっとやるべきことがいっぱいあるでしょう。もつといっぱい楽しんで失敗して学んでよ、と思いますね。

青木 自分で自由にできる高校生活は2年とちょっとしかない。いろいろやりたいことはたくさんあるかもしれませんが、私はずの二つを一生懸命やってみてほしいですね。たとえダメだったとしても、全力でやったという経験は何かしら得るものがあります。西高には様々な個性を持つ人たちが集まっています。苦手だと思っている人でも、コミュニケーションをとると自分にはないものを持っていて興味の幅が広がる。ですから、多くの人と接していっぱい吸収し、自分の糧としてください。世の中は著しく変化しています。変化に合わせることも大切ですが、根本的に変えるようなアイデアを出すことのできる人



(鈴木) 工学部所属。思い出と言えば、テストの結果が廊下に張り出されることでした。補習授業や水泳訓練も思い出になっています。
(写真／工学部、1977年卒業アルバムより)



(齊藤) 3年生の時に転校してきたので部活の経験はありませんが、初めて西高の東坂をのぼった時、ちょうど桜が満開だったのが印象的でした。



(御室) 部活には特に所属していませんでしたが、60年を過ぎて交流している人を得たこと、「知・仁・勇」を高校時代に知ったことが後に大きな影響となっています。(写真／修学旅行)

Challenge!

西高自慢の先輩たちからのエール

失敗を恐れず、高みを

間となり、浜松をさらに二歩先をゆく地域にしていきたいと思います。

齊藤 先ほど、西高の卒業生は地元企業で活躍する人が多いという話が出ました。ここ浜松には、産業でも医療福祉でも、志があれば最先端に触れることができます。この地にはスグレモノがあふれています。ぜひ、西高生には高みを目指して頑張してほしい。企画力や実践力など若い人たちに期待する場は多いと思います。私と同じように、進学で都会へ出る人も多いでしょう。でも、グローバルは浜松にあります。ぜひ、卒業後は故郷へ戻り、地元企業に就職してください。

御室 当時はあまり意識していなかったのですが、西高時代に先生から教えていただいたことや交流関係というのがバックボーンになって、現在の自分があるという感じがいたしますね。「知・仁・勇」という校訓がありますが、とても大事な言葉で、我々が生きていく上で、あるいは会社を経営していく上でも精神的支柱になっていると感じています。ですから、若いときに一人の人間として何を学び、どういった基本的な考えを持つかということが大事ですね。皆さんの先輩たちも成功ばかりではなく失敗もあって、それを乗り越えてきた。西高の教師の皆さんは、優れた起業家を数多く輩出してきたこの地域特有の「やらまいか精神」にあふれた若者たちが活躍できるよう、現役の生徒に対してしっかりと授業の中で伝えていただき、創立200年に向かって頑張してほしいと願っています。

(2024年6月16日)

高4回卒、90代の大先輩たちが 浜松二中～西高、変革時代を語る



左から河合昭八郎さん、今村昭八さん、壽山隆久さん、川口好市さん 遠州鉄道応接室にて

戦後の混乱の中、二中へ入学

小田木（以下、司会） 浜松西高が創立百周年を迎えるにあたり、今日は旧制浜松二中時代を経験されている皆さまにお集まりいただきました。90歳を超えているとは思えないほど若々しくお元気ですね。早速ですが、西高、当時の二中を受けた理由について聞かせてください。

河合 僕は昭和21年3月に小学校を卒業。当時の中等学校は一中（現浜松北高）と二中（現浜松西高）、他に商業（現浜松商業高）や工業（現浜松工業高）がありました。先生に将来の希望などを聞かれ、篠原から通える二中を受けることになりました。

今村 私が県居小学校6年の時でした。昭和20年6月18日の浜松大空襲で市街が焼け、鴨江の実家も全部焼けて何もなくなりました。それで避難先の湖西市の知波田小学校へ通いました。夏休み中に終戦となり、2学期から雄踏小学校へ。6年生の時に3回も小学校が変わったので、どうして二中を受けることになったかは覚えていませんよ。家から近いから、二中に親や親族が行かせてくれたんじゃないかな。

壽山 私のクラスからは、二中に行つたのが3人かな。家は西伊場なので二中がすぐ近くでしたから。

川口 浜松大空襲の焼夷弾で焼きだされ、長女の嫁ぎ先の多治見市に妹と二人で疎開。終戦後8月末には焼け跡のバラック小屋に帰りました。父親から中学進学だと言われて富塚小学校から一中へ一人、

私が二中へ。進学者は数人でした。

今村 私は戦争中に育っていますから、陸軍幼年学校に入つて、陸軍士官学校へ行くくんだつて思っていました。それが終戦でガラッと変わって、民主主義、自由主義の教育になった。学生服なんて買えないから、かつこ悪いけど親父の背広を直してもらった服を着て、下駄を履いて通いました。

先輩たちは親父みたいだった

司会 二中に入った時、学校の雰囲気はどうだったんですか。授業の科目は？

川口 科目は今とそれほど変わらないんじゃないかねえ。

今村 あ、この資料に出ている。

河合 国語、漢文、英語、数学、理科、社会、保健体育、芸能科だ。

今村 教科書はまだちゃんとしたものがなくて、自分たちで藁半紙を切つてテキストを製本していたよな。

壽山 学校の雰囲気は小学校の頃とは全然違いましたね。各地域の代表みたいに、1人とか2人来ているわけだから、勉強せにやいかんみたいな感じで。ガヤガヤしていても、先生が教室に来ると、ピリッとした雰囲気になつて、小学校の時のような子ども扱いもなかった。占領軍の教育指導が入ってきたから、いろんなことが変わったよね。朝礼も、「気をつけ！前にならえ！」だったのが、「みんな並べ」って言いうようになったので、ゲラゲラ笑つてね。

川口 教育方針がガラリと変わつて、先生も生徒も戸惑っていた感じだったな。



高22回卒

司会 **小田木基行**（おだぎ・もとゆき）

1952年浜松市中央区入野町生まれ。浜松市在住。
在学中は弓道部に所属。中央大学理工学部卒業。
SBSプロモーション常務取締役を経て浜松科学館
館長。浜松西高同窓会副会長

message

世界で戦争が勃発している現在、私たちの平和は先輩たちのご苦勞の賜物です。第二次世界大戦後の混乱時の教育を高4回卒の先輩からお聞きして、「西山魂」が脈々と今日まで繋がっている事を感じました。いつまでもお元気で。

今村 一度卒業して軍などに入った人が5年生として戻ってきているわけです。子どもと大人が一緒にいるようなものです。親父みたいに見えた（笑）

河合 僕は、先輩に呼び出されて説教されたこともあったよ。

壽山 北校舎からは秋葉山までよく見えた。南校舎からは太平洋まで見えたよ。海を見ながら将来について語り合ったものです。「おまえどうするだ？」「東京さ、行くだ？」とかね（笑）

復興の中での部活動

司会 今村さんは確か写真部でしたね。部活動は盛んだったのですか。

今村 中学の時は「物象部」と言ってたね。生物も化学も写真も全部入っていた。高校になってからは天文部、写真部、科学部と分かれました。天文部は天体観測をするんですが、高台ですから星がきれいに見えた。教室の黒板をはずし風よけにして、流星を観測したことを覚えてますよ。

川口 私は高校の終わりは電波クラブだったんですが、中学では今村さんと同じ物象部でした。とにかく物理教室に入り浸りでした。天気の良い日は先輩たちが、黒点の観測をしていたのをよく覚えてます。

壽山 高校は図書クラブだったけど、本の整理をしただけ（笑）。暇だから仲間と校庭でソフトボールをしていたなあ。

今村 写真部は浜名湖一周とか、自転車です。撮ってました。僕は運動部の写真や運動会や芸能祭などの行事もたくさん撮ったんですよ。

河合 僕は中学が水泳部で、ヘルシンキオリンピックに出場した倉橋範彦さんと同級生だったんです。あの古橋広之進さんが学校に見にこられて背泳ぎをするようアドバイスしたんです。それで彼はオリンピックに出場したんですよ。

勉強と大学進学

司会 進学については、どのように考えていたんですか。

川口 進適検査（進学適性検査）というのがあった。今の共通試験だね。

今村 国立大受ける人は進学適性受けていたけれど、私みたいなのは卒業のギリギリまで考えなかったですね。

壽山 私は先生に「お前、ここを受けろ」と指導されて決めた感じですよ。

川口 私は勉強もせずに遊び惚けていたもんで、高校3年になって慌てました。親戚の商店に勤めたものの、店番をしながら



本校初の女子生徒（高4回生）

将来の事を考え、半年で辞め、受験準備をして静大教育学部に入学できました。子どもが好きだったので教員になりました。

壽山 僕らの学年は東大へ4人も入ったんです。それが優等生じゃなかったんで、先生がびびりしたらしい。

今も記憶に残る思い出

司会 西高時代で一番記憶に残っている思い出を聞かせてください。

川口 中学卒業の時に箱根へ行った修学旅行。雪が降る中、十国峠から熱海まで降りたものの、バラバラになっちゃって大騒動になりました。

河合 高校の修学旅行。京都、奈良、大阪だったね。

司会 同級生には、女子生徒もいたんですよ。

今村 ええ、高校の時、女子生徒も修学旅行に行きました。

川口 女子はB組かな。私は6年間男子クラスだったので、1度も女子生徒と二緒になつたことはなかったです。

今村 僕は写真部だったので、女子生徒の



昭和25年7月20日 西高写真部 無線電信鉄塔からの西山台
（手前は西部中学校グラウンド）



高4回卒クラス写真（昭和22年）

写真をよく撮っていましたよ(笑)。でも3年の時に区割りの規制がなくなったので、女子は市立に大半が移りました。西高を卒業したのは5人かな。

壽山 思い出に残っているのは先生との出会いですね。中でも、自分が興味持ったことについて気さくに話す生物の田中亮三先生です。進路相談から就職の相談、卒業後もずっと付き合いました。もう一人、松下輝雄先生という名物先生。授業の始まりは民主主義を語り、途中からはシベリア抑留の話になりました(笑)

今村 僕はやっぱり写真部の活動ですね。7人ほどいたかな。運動部から学校行事まで、一生懸命撮りましたね。

誇りと希望を持ち、世界へ羽ばたいてほしい。



PROFILE (左から)

河合昭八郎 (かわい・しょうはちろう) さん
1933年神奈川県湯河原町生まれ。浜松市在住。静岡大学教育学部卒業。浜松市内の中学校、静岡県教育委員会に勤める

今村昭八 (いまむら・しょうはち) さん
1933年浜松市中央区旅籠町生まれ。浜松市在住。明治大学工学部卒業。航空自衛隊浜松基地(基地指令)に勤める

壽山隆久 (すやま・たかひさ) さん
1934年浜松市中央区西伊場町生まれ。浜松市在住。中央大学法学部卒業。浜松市役所で都市計画部長を勤める

川口(高山)好市 (かわぐち・よしいち) さん
1934年浜松市中央区富塚町生まれ。浜松市在住。浜松市内の小中高等学校、浜松盲学校に勤める。「とみつか未来塾」ボランティア参加中

司会 では、最後に西高の後輩たちへメッセージをいただけますか。

川口 今はITの時代でしょ。でも、何でもかんでも機械任せではなく、好奇心と探究心を持って、自分の頭を使って新しいことを開拓してほしいと思います。

壽山 私たちは、人生の価値観が変わるような変動を経験してきました。軍国少年として育ち、ある日突然、民主主義国家となつて、個人の考えで自由に生きなさいという社会になったわけです。自由で大らかな気持ちで臨むことが大切だと思います。他人を意識せず幅広い考えを持って、自分に負けないよう生きてもらいたい。
河合 後輩の皆さんには、「西山魂」を持つて頑張ってもらいたい!

今村 僕は西山台で学んだ経験は、人生の誇りとなつて今に繋がっています。後輩の皆さんには、国際社会に通用するリーダー、世界に羽ばたくという希望を持つて進んでもらいたいと願っています。

○ 西山台の変遷が植生研究からわかった! ○



創立間もない浜松二中の全景。南側が校舎、北側が校庭という配置は今と同じ

遅い区域ほど植生の遷移は進んでいないことが明らかになった。2023年、中村さんは優れた自然科学の研究を表彰する第39回山崎賞に選ばれた。

浜 松二中が現在の西山台に移転したのは1925(大正14)年。山を削り、第二期工事によって本館が完成した年だった。四期にわたる大規模な工事を経て、体育館や講堂、木造二階建ての校舎が完成。1928(昭和3)年4月に新入生を迎え、初めて1学年から5学年まで整った。

をいくつかの区域に分けて樹木の種類と位置を記録すると同時に、資料をもとに地形の変化や造成の経緯を調べた。さらに、中村さんは現代と明治の正確な地形模型を作成。「開発により山を削ったところもあれば、埋め立てた谷や池もあり、興味深いです」と中村さん。

森林は草から幼樹や低木、高木で構成。樹木にはスダジイやクスノキなどの陰樹とアカマツなどの陽樹があり、生えている樹木を調べることで、どんな土地でどう遷移したのか推測できるという。校舎の立っているところは中央の谷が埋め立てられ、西側の斜面を削ってきた地形。西山台の南西部分はスタジイなど古く大きな樹があるため、あまり手が入っていないことがわかる。逆に開発が遅い区域ほど植生の遷移は進んでいないことが明らかになった。



インターハイ
出場

軟式テニス部

二中時代から国体やインターハイで活躍



優勝

柔道部

1988・1989年 溝口紀子
全日本女子体重別選手権 52kg級以下優勝



優勝

弓道部

1984年 インターハイ 男子団体 優勝



甲子園
出場

野球部

1981年 甲子園初出場、2回戦進出



インターハイ
出場

卓球部

1953年 インターハイ初出場
10年連続出場



インターハイ
出場

硬式テニス部(男子)

2021年 インターハイ シングルス 出場
畑碧音(あおと)



インターハイ
出場

バレーボール部(男子)

インターハイ出場14回
全国選抜大会出場6回、国体出場4回



インターハイ
出場

バスケットボール部(男子)

インターハイ出場10回、
ウィンターカップ出場3回(最高成績ベスト8)



優勝

水泳部

全国大会優勝者、入賞者多数



優勝

陸上競技部

2006年 中村宝子 インターハイ200m優勝・
高校新記録、アジア大会200m 5位



サッカー部

1995年 インターハイ県予選 準優勝



剣道部

1992・1993年 インターハイ東海大会
男子団体 2年連続出場

運動部

トピックス

仲間とともに燃えた青春の日々

目標に向かって切磋琢磨した
仲間との絆は今も心の支えとなっている。



インターハイ
出場

硬式テニス部(女子)

2010年 インターハイ 団体戦ベスト8



ダンス同好会

1973年 クラブ必修となった際に創部



ハンドボール部

1950年 東日本選手権大会出場
(県大会準優勝)



リフレッシュ部

登山班とスキー班が活動、
登山班は本格登山へ



優勝

ボート部

2018年 インターハイ シングルスカル優勝
田口晴那



インターハイ
出場

体操部

1961年 インターハイ 団体5位



バスケットボール部(女子)

1999年 創部 県大会出場



バレーボール部(女子)

1973年 クラブ必修となった際に創部



フォークダンスサークル

毎週木曜日に屋上で活動

文化 部

トピックス

好奇心と探究心あふれる日々

好きなことを究める時間が
豊かな心と感性を磨いてくれた。



化学部

文化祭でガラス細工のプレゼント、
金樹・銀樹、火山などの展示



出展作品:「ゴールの瞬間」(高47回)加茂知子



写真部

1994年 全国高文祭 出展



美術部

全国高文祭 文化連盟賞 彫塑部門 2014年 今尾美遥
美術・工芸部門 2016年 水谷百恵



新聞部

創立50周年を記念して
「西高新聞」縮刷版をOB会が作成



地理部

学校周辺の地形、地質の観察と
地形図の模型制作



書道部

コンテストに向けて練習



天文→地学部

校舎の屋上で天体観測、
御園天文科学センターへの観測旅行



無線部

北高無線部と交信、
アマチュア無線コンテストに出場



弁論部

1956年 静岡県高等学校 弁論大会
優勝



数学部

みんなで難問に挑戦!
研究結果を会誌にまとめた



歴史・史学／歴史研究／社会部

郷土史の研究や遺跡の発掘に参加し、
研究結果を会誌にまとめた



放送部

1995年 鶴見美輝
NHK杯全国放送コンテスト 朗読部門 出場

1961 1962 1963 1964 1965 1966 1967 1968 1969 1970 1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982

● 昭和40 ● 昭和50

1967年水泳部・新井到
高校総体男子400m自由形優勝

1965～1966年卓球部・伊藤誠一
東海選手権大会2年連続優勝

1962年軟式テニス部
全日本軟式テニス第4位

1975～92年バスケ部
高校総体、全国選抜を
合わせ9回出場



1981年
野球部
夏の甲子園に
初出場

年バレー部
団体出場

1968年陸上部
高校総体1600mリレー
全国高校新

1966年陸上部
高校総体400mリレー優勝

1964年
石川準司
東京五輪出場

ダンス同好会 (1973)
ボート部 (高) (1973)
女子バレー部 (1973)

女子硬式テニス部 (1980)



1963年東京国際スポーツ大会では
100m決勝に進出 (高16回卒)

■ 野球部



■ 排球部



■ 陸上部



■ 送球部



■ 体操部



1973年園芸部
校内の緑化を着々と進める

1970年史学部
史学雑誌「西陵」創刊

1962年新聞部
県下高校新聞コンクール第1位受賞

1973年
創立50周年記念式典にて
吹奏楽部と弦楽部による
浜松西高管弦楽団結成

1976年茶道部
新築の同窓会記念館の
和室で茶道の修業

1982年
吹奏楽部、弦楽部
全国高校総合文化祭に
管弦楽団で初出場

工学部 (1965or66)

茶道部 (1967)

ユースホステル部 (1969)

華道部 (1969)

クラシックギター部→ギター部 (1972)

弦楽部 (1973)

囲碁将棋部 (中高) (1979)

応援団 (1981)

■ 放送部



■ 化学部



■ 珠算部



■ 生物部



■ 映画研究部



■ ハーモニカ部



■ 器楽部



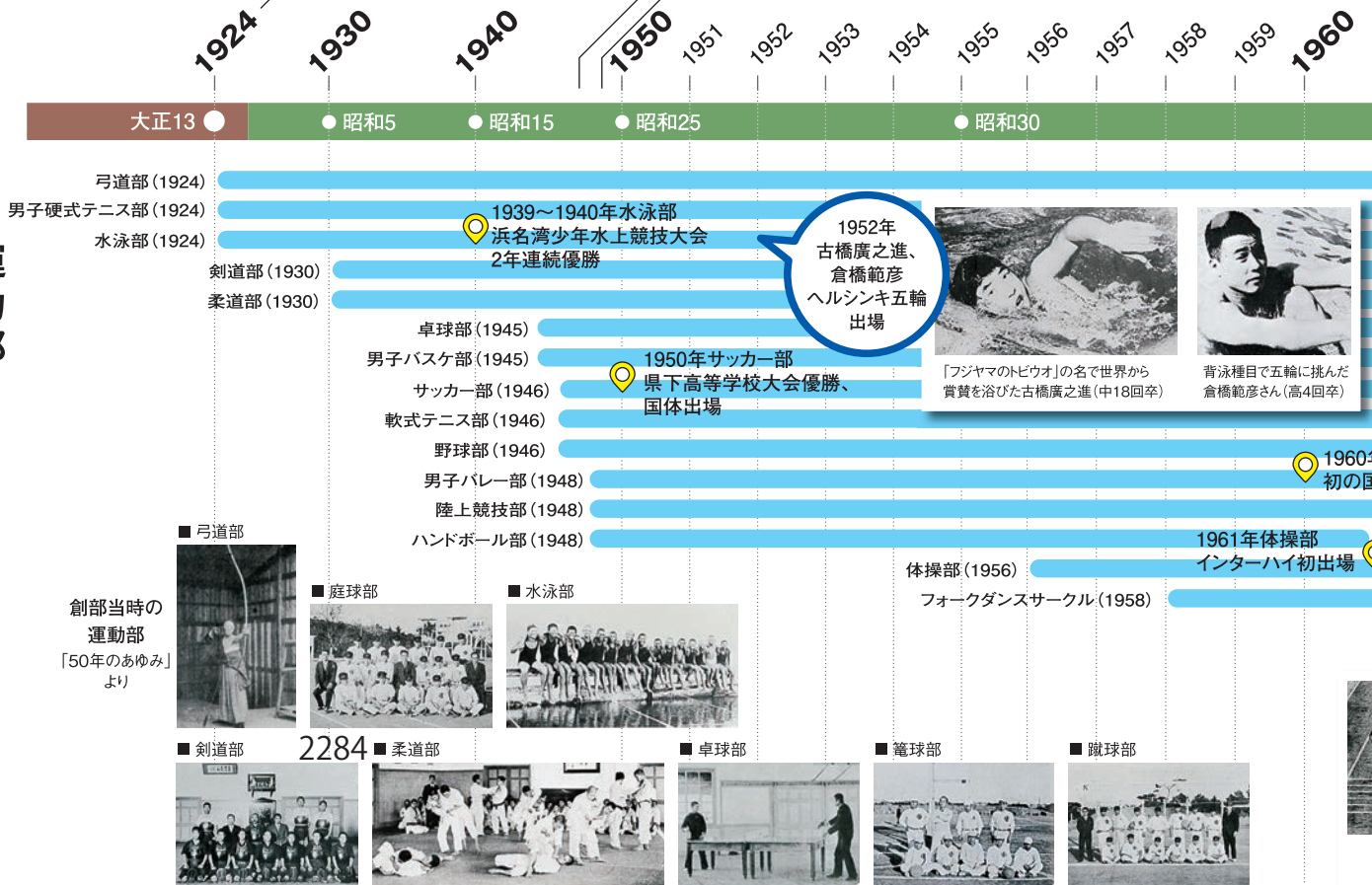
■ 合唱部



●浜松第二中学校開校 ●1948年 浜松第二高校移行 ●1949年 浜松西高等学校に改称

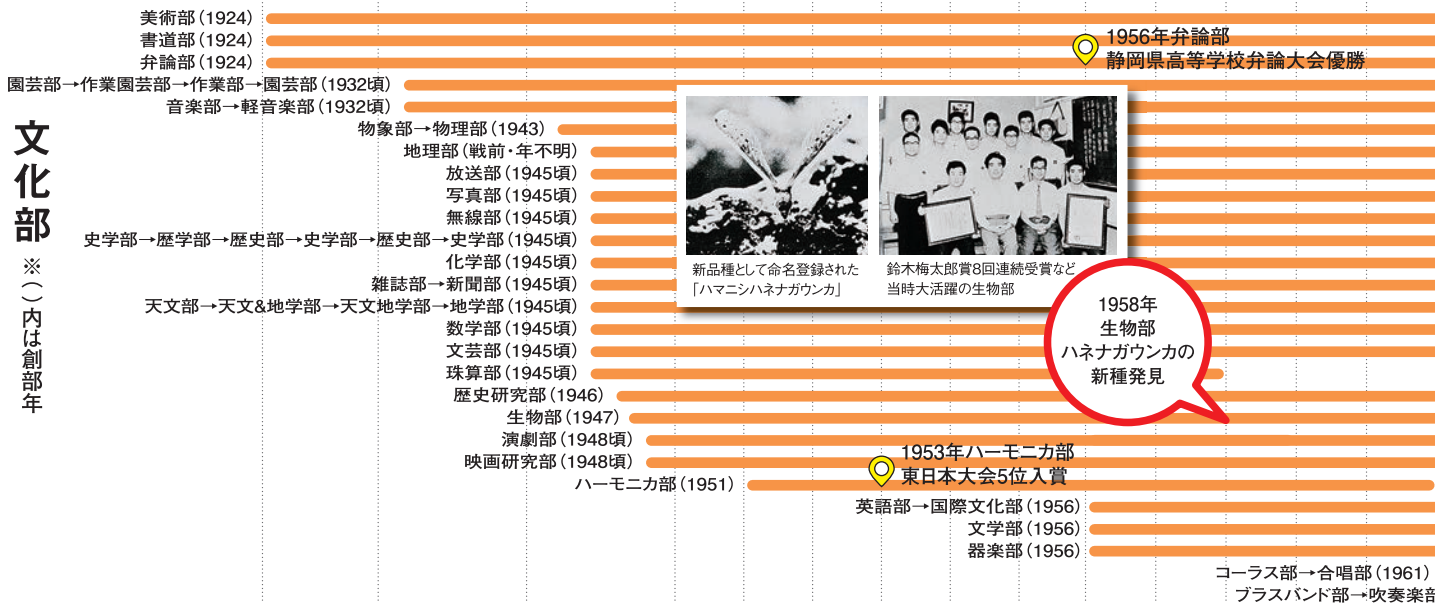
運動部

※（）内は創部年



文化部

※（）内は創部年

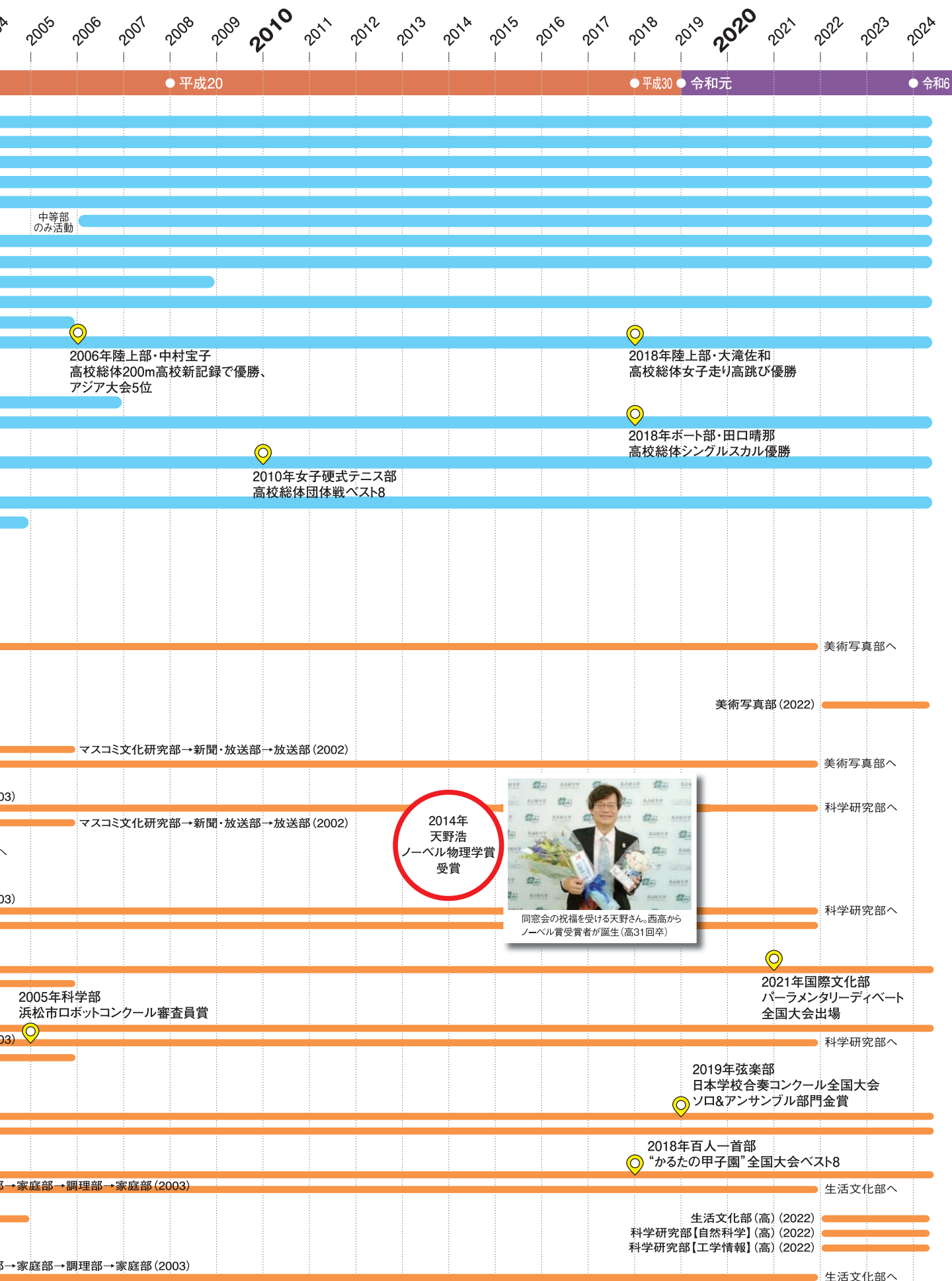


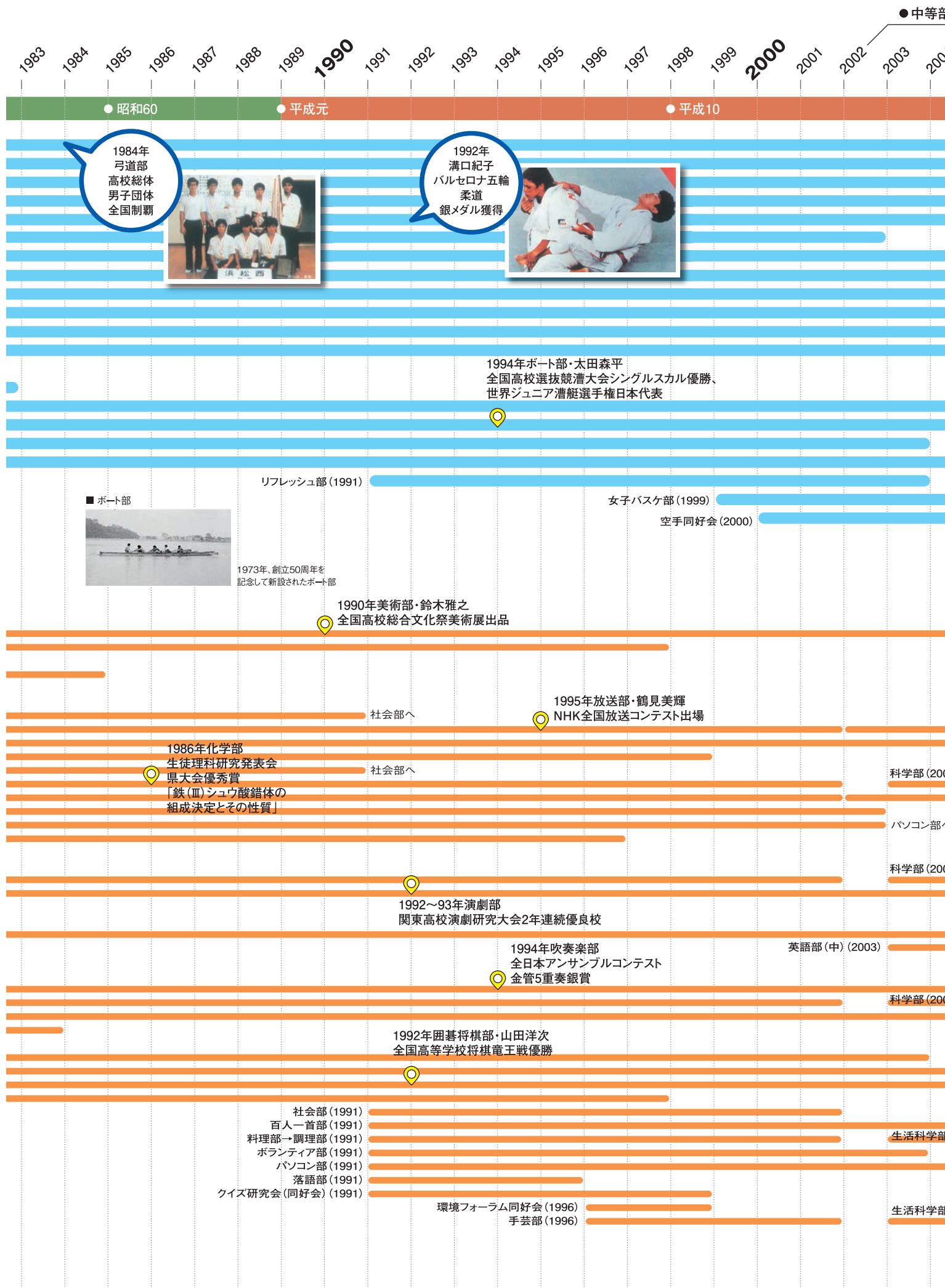
浜松西高 部活動 100年の歴史年表

1924年の創立以降、戦争や中等部設置といった様々な時代の流れの中で、本校の部活動は度重なる統廃合がされてきました。この年表は、浜松西高校および同校同窓会館（記念館）内に保管されている資料をもとに、本校の部活動の歴史の深さを少しでも伝え残したいという思いを込め作成しました。（編集担当●杉山優、浅野慶太郎）

※限られた時間と手がかりによる編集のため、年表の中には誤りや不足点があるかと思われます。ご容赦いただけますと幸いです。

○活動歴が不詳の文化部について
図書部 (1932年創部)、講演部 (1939年創部)、語学部 (1946年創部)、社会部 (1948年創部)、短歌部 (1948年創部)、近代文学部 (1956年創部) の記録は揃いましたが、その後の活動歴が不詳のためグラフ内への記載は除いています。







優勝

囲碁将棋部

1992年 第5回全国高等学校
将棋 竜王戦 優勝 山田洋次



銀賞

吹奏楽部

1994年 第17回全日本アンサンブルコンテスト
銀賞 金管五重奏



文芸部

文芸部会誌「塑像」No.50まで発行



全国大会
出場

百人一首部

2018年 全国高等学校小倉百人一首
かるた選手権 ベスト8



工学部

様々なロケットや凧、エアカーなどの
試作や実験を繰り返した



生物部

ハネナガウンカの新種発見、ハマニシハネ
ナガウンカと命名、大英博物館にも保存



料理部／調理部／家庭部

オリジナルレシピを考えよう



茶道部

文化祭でお手前披露



演劇部

1992・1993年
関東高校演劇研究大会
2年連続 優良校



コーラス部／合唱部

みんなで心を合わせて歌おう!



ギター部

放課後、みんなでギターの練習



全国大会
出場

ハーモニカ部

1952年 全国大会2位
ソロ 古橋美心



ユースホステル部

各地のユースホステルに宿泊して
楽しく活動



金賞

弦楽部

2019年 日本学校合奏コンクール全国大会
ソロ&アンサンブルコンテスト アンサンブル部門 金賞



全国大会
出場

国際文化部

2021年 パーラメンタリーディベート
静岡県大会 全国大会出場権獲得

運動部の応援に欠かせない存在「西高応援委員会」

西高応援委員会は運動部員たちの士気を高める重要な存在。「私の頃は9クラス各2名の委員が出て、週2回ほど屋上で練習しました」と、現・浜松市副市長の長田繁喜さん。「翌年創部されたボート部に多くの3年生が駆り出され、私たちは2年なのに威張っていました」と元団長の岡部格さんは笑います。思い出に残る応援は、バレーボール部の全



同窓会会計監査役を長年務める
応援団大御所、前田米藏さん
(高12回卒)

国大会出場について東京・駒沢へ行ったこと。一番多く応援したのは野球部で、今でもOB会の集まりに声が掛かるほど運動部とのつながりは強いそう。

80歳を超えてなお同窓会等で張りのある声でエールを唱える西高応援団の大御所・前田米藏さんは「野球部、県大会ベスト4の試合は応援冥利につきます」と話してくれました。自由参加の応援委員会となった今も、自慢の大太鼓と大旗、カッコ良い応援スタイルと伝統は引き継がれています。



応援太鼓購入「雄飛」と命名(昭和48年7月)



応援歌と校歌、伝統の西高応援スタイルでエール

ともに高27回卒の長田繁喜さん(右:副市長)と岡部格さん(左:元団長)

西高女子同窓生をつないだ20年「はなみずき会」

西高同窓会女子部会として1986年に発足した「はなみずき」。開放性・自発性・女性性を目指し、「女性会員相互のつながりや情報交換を大切に」との思いから、会報の発行と記念講演および総会の開催などの手作りの活動が約20年間続きました。

解散委員会の代表を務めた絹村和美さんは「立ち上げた諸先輩の思いを大切に活動してきましたが、西高の男女比率も半々となり、女子部会の意義や運営の難しさを踏まえ、解散が決まりました」と経緯を説明。同

会の役員を務め、絹村さんとともに解散事業に携わった大中敬子さんと山下みさ子さんは、「作業は大変でしたが、同窓生との交流が楽しく、絆ができたことを嬉しく思います」と話していました。2005年の解散記念事業では、創刊号から最終号までを一冊にまとめた「会報総集版はなみずき」の発行、登山家の田部井順子さんによる記念講演を含む記念式典の開催、会費残金の寄付などを行いました。会は解散しましたが、記念植樹の「はなみずき」は同窓会館前で毎年花を咲かせています。



写真、左から。いずれも高22回卒
山下みさ子さん、絹村和美さん、大中敬子さん

伝統を受け継ぎ絆を深める「浜松西高OB会」

OB会名・代表・連絡先	活動内容	メッセージ
浜松西高野球部OB会 ○会長代行／木下知之(高34回卒) ○会員数／約350名 ○入会資格／浜松西高野球部OBであること ○会費／5000円、学生の間は3000円 ○事務局／藤田浩二(高36回卒) ○連絡先／木下知之 携帯090-2619-9738	1月／総会開催、 4月／西高北高定期戦の開催、 6月／夏の祭典(夏の大会前の決起大会)、選手名鑑発行 ＜現役生への支援＞活動費支援、道具支援(ボール等)、 食料支援(お米券等)、選手名鑑発行、3年生対象にテブルマナー講座開催	100周年を記念して2024年10月に2023年夏の甲子園優勝校である神奈川県の慶應高校との記念試合が行われました。
浜松西高柔道部OB会 ○会長／白井康二(高29回卒) ○会員数／579名 ○事務局／宮崎典彦(高31回卒)、新村俊明(高36回卒)	年1回総会、1月2日初稽古、OB対現役の試合、 全国大会・東海大会の補助・応援、 卒業記念品贈呈、西中・西高で初段取得者へ黒帯贈呈、全国大会壮行会	最近の現役生も頑張っています。令和4、5年 文武両道杯 全国高等学校柔道大会、男子団体 2年連続優勝
浜松西高水泳部OB会 泳翠会 ○会長／八木勝彦(高27回卒) ○会員数／88名 ○事務局・連絡先／湊 健一郎(高42回卒) 携帯090-2610-6806 http://www.7b.biglobe.ne.jp/~esk/	現役生の応援を目的とし、支援金や激励品の贈呈を行い、年に一度総会を開催し親睦を深めています。	古橋廣之進氏の意志を受け継ぎ、より強力に現役生を応援するため、是非皆さんご参加ください。
静岡県立浜松西高等学校 陸上競技部OB会 ○会長／瀧 佳久(高29回卒) ○会員／957名 ○入会資格／卒業時に自動入会 ○会費／5000円 ○事務局・連絡先／鈴木 公(高35回卒) 携帯090-1982-5664	年1回の総会懇親会、年4回のゴルフコンペ、 現役部員への援助	様々な社会で活躍をしている陸上部OBの皆さんの胸の中にある、“走・跳・投”の思い出を語り合いましょう。
浜松西高校サッカー部OB会 ○会長／飯田末夫(高32回卒) ○入会資格／下記連絡先にお電話ください ○事務局・連絡先／小杉哲康(高47回卒) 携帯090-4218-7777	西北戦、初蹴り、定期会合、懇親会	20～80代まで幅広い年代のOBがボールを追いかけています。一緒にサッカーを楽しみましょう!
浜松西高等学校バスケットボール部OB・OG会 ○会長／奈良安洋(高36回卒) ○事務局／青島正和(高45回卒)	総会、現役OB交流試合(年1回)、現役への支援	毎年1月2日に現役との交流戦を行っていますので、是非体育館にお越しください。
浜西弦友会 ○会長／三浦宏之(高25回卒) ○会員数／60名 ○会費／3000円 ○入会資格／浜松西高弓道部OBであること ○事務局・連絡先／大城哲治(高43回卒) 携帯090-7036-0358	総会、懇親会、合宿見舞、浜西弦友会杯(主催部内大会)、現役生への支援(弓具等)、全国大会・東海大会出場選手にお祝い贈呈	インターハイ優勝を再び目指す現役生を支援することを目的とした会です。お気軽にご参加ください。

2002年

浜松西高に中等部が設置され、
中高一貫教育がスタート！



2002年4月、中高一貫1期生入学式

全国的に注目を浴びた、
中高一貫教育モデル校

浜松西高が公立高校県内3校中の中高一貫教育のモデル校に指定され、2002年4月、4学級160人の中等部が設立された。都市部での中高一貫教育は全国的にも珍しく、多くの注目を浴びた。

受験にとらわれず「人気の高い西高に入試なしで進学できる」ということから、学校説明会には定員の10倍を超える約1700人の小学生とその保護者が参加した。一方で、「中高一貫教育によって西高のレベルが低下しないか」という懸念の声もあったが、当時の岡田修二校長は「中高一貫教育のゆとりとは、入試の影響を受けずに、伸び伸びと学べること。勉強時間や内容を縮小することではない」と理解を求めた。

当時、中等部では、小集団授業を取り入れて基礎を徹底し、選択科目で理数分野を充実させ、国英を踏まえた特別科目「表現」を置いて独自性を打ち出す「浜松方式」を行っている。単に中高一貫教育というのではなく、浜松にある、科学に力を入れた学校であることを特色としていた。

真の力をつけ、校訓に掲げる「高い知性、豊かな心、たくましい力」を具現化し、真のリーダーの育成を目指す。そして、生徒たちが楽しく学び、人間関係を育み、将来に向けて目指している希望や生き方を自分自身の手で実現させていく、そんな活力あふれる学校としていくことを願い、スタートした。

「西山台に立つー浜松西高青春群像ー」より

君たちだ！

（ 初の中中部入学試験は
6・3 倍の超難関！ ）

鬼頭（以下、司会） 皆さん、集まったとたん笑顔が弾けていますね。まずは地元の中学ではなく、西高中中部に進もうと思っただ理由を教えてください。

原田 西高に中部部ができると聞いて、きつとレベルの高い人たちが集まるんだろかなと思いました。地元の中予も楽しいかもしれないけど、がんばつてみようかなと思いました。

江馬 正直なところ、親に言われて、何となく受けた感じかな。

渭原 僕も親から言われてですね。

堺 私は好きな男の子が受けるというので、受けたんです（笑）。

司会 えっ、そういう理由（笑）。

染葉 私はもともと西高に入りたかったんです。親にはどうせ受からない、と言われていたのですが、家が近かったのでチャレンジしました。

司会 皆さんが受験した年は、6・3 倍という高い競争率だったと聞きました。どんな試験だったんですか。

染葉 グループ面接とディベート、筆記、作文でした。試験は2日間でしたが、頑張りましたよ。瞳さんとは同じグループだったのですが、受かったのは私たち2人。運命の出会いだったよね（笑）。

原田 サッカーボールに五角形と六角形

の数を答える問題があった。

江馬 それと、タイムマシンに乗るなら、という問題があった気がする。

堺 ドラえもんじゃなかった？

原田 あと、アリの絵を描いたよ。

渭原 よく覚えていないけど、1つだけ正解じゃないのを選ぶ問題が多かったかな。

染葉 学校でやっていいこと、悪いことの問題で、丸をつけた記憶がありますね。

司会 みんな自分が受かると思っていましたか？

全員 いや、ぜんぜん。

堺 何が正解で、どうだったら受かるかもわからないし（笑）。

江馬 高校受験をやらずに西高行けるというのはラッキーって思ったよね。

堺 女子は制服への憧れがありました。あれを着て通学したい！と。

染葉 わかる！可愛いもん。



中部1期生、高60回卒座談会

2002年に設立された中部の1期生が懐かしい校舎に集合。

恩師とも再会し、当時の写真や映像を見ながら中高6年間の思い出に花を咲かせた。

後輩生に中高一貫だからこそ得られる学びや仲間との絆についても熱く語る。

後輩生よ、次は



初めての海外旅行だった人も多くいた修学旅行。学校交流をはじめ、異国での多くの経験はとても刺激的で楽しい思い出になりました。

真剣に取り組んだ部活動。
たくさんの良い思い出も、
時には辛い思い出も共に味わった
素晴らしい仲間ができました。
(7番・江馬／1番・渭原)



1年生座談会のメイキング動画は
YouTubeでご覧いただけます

静岡県立浜松西高等学校 創立百周年記念サイト▶



PROFILE (左から)

江馬 享佑 (えま・きょうすけ)

中高 サッカー部所属

1989年浜松市生まれ。浜松市在住。
静岡大学教育学部卒業。浜松市立西
小学校教諭

堺 瞳 (さかい・ひとみ)

中高 吹奏楽部所属

1989年浜松市生まれ。東京女子大学卒業。
転職スクール「career eye」運営。社会保険
労務士、国家資格キャリアコンサルタント。
元静岡朝日テレビアナウンサー

染葉 (村井) 菜摘 (そめは・なつみ)

中高 吹奏楽部所属

1989年浜松市生まれ。浜松市在住。愛知学院大学
心身科学部健康科学科卒業。浜松市立佐藤小学校
養護教諭

原田 貴仁 (はらだ・たかひと)

中高 野球部所属

1989年浜松市生まれ。愛知県大府市在住。名古屋
市立大学医学部医学科卒業。春日井市民病院消化
器内科医長

渭原 嵩之 (いはら・たかゆき)

中高 サッカー部所属

1989年浜松市生まれ。浜松市在住。奈良県立大学
地域創造学部地域総合学科卒業。JAとびあ浜松を
経てムラカミ(株)

司会 皆さんは入学時に先輩がいま
でした。中高一貫の1期生だと感じた経
験、困ったことはありませんか。
原田 中高一貫のモデル校ということで、
多くの教育関係者が授業の視察に来てい
たことを覚えています。
渭原 うれしかったのは受験で途切れず
6年間サッカーができること。ただ、1年
の時は先輩がいなかったため、最初は負けてば
かりでした(笑)。
江馬 問題集がやたら分厚かった気がし
ますね。

染葉 中3の時はすでに高校の問題やつ
ていたよね。
堺 勉強、難しかったよね。テストがやた
ら多くなかった？
江馬 朝、ラジオの基礎英語を聞かなか
ちやいけないんだけど、ぜんぜんできなかつ
たな。
原田 隣の教室が高3だね。小学校を卒
業したばかりだから、大きいなあと思って
見上げていた。
堺 「静かにしなさい」って先生によく注
意されて。私、敬語がうまく使えなくて
すごく困ったのよね。
染葉 卒業して社会人になってから先輩
に「ABCと叫ぶ声がうるさかった」と言
われました(笑)。



サッカー部の同級生と。
共有した時間が
1番長い仲間たち。
濃い繋がりが
今でも定期的に会って
学生時代の思い出で
笑い合っています。
(渭原)



高51回卒

司会 **鬼頭里枝**
(きとう・りえ)

1981年浜松市生まれ。東
京都在住。成城大学文芸
学部ヨーロッパ文化学科
卒業。フリーアナウンサー。
鹿児島読売テレビ、静岡
放送を経てフリーとなる

message ● 中高一貫1期生、彼彼女たち
の絆の強さを羨ましく感じ、そして各方面で活躍
する姿がとても頼もしく感じられました。坂道やペラ
ンダからの風景が懐かし、これからも後輩たちが
空高く巣立って行くことを願っています。(鬼頭)



高60回卒

先生から愛情を受けて育てられ、
勉強だけじゃない学びも得られました。
感謝です！

吹奏楽部は運動部！
重い楽器を音楽室まで女子でも
運んでいたの、
体育祭でも吹奏楽部がトップ入り。
6年間楽しかったです！
(堺)



渭原 でも基本的に先輩生には、可愛がられていた気がするけれど。
原田 みんな優しくかった。部活も。
司会 体育祭などのイベントは中高一緒に
行っの？

江馬 中学の時は高校と一緒だったんじゃないかな。僕らが高校生になつてからは、
中学と絡んで何かをすることは少なかつたかも。

染葉 吹奏楽部は中1の時、高校生と合奏もやつていたよね。

堺 中1の時から高校3年生に憧れていました。キラキラで、あんな風になりたいって。

染葉 吹奏楽部は女性が多いんだけど、1階から5階まで自分たちで重い楽器を運ぶのよね。男前というか、先輩たちがイキイキしているのを見て、部活っていいなと。伝統、文化みたいなものが、中学から身に付いていた気がします。

渭原 中学のサッカー部はグラウンドの隅で練習。中学と高校のサッカーは全

然レベルが違うから、一緒にできなくて。

原田 野球部はそもそも軟式と硬式でボールが違うので、やっぱり中学と高校は分かれていました。体格も違うし、危なくて一緒にできないですよ。中学の時、場所を間借りする感じで、室内練習が多かつたかな。試合の時は人数が足りないから、サッカー部の渭原君に助っ人を頼んだことも。中1だから弱いのかと思っていたら、3年になつても弱かつた(笑)。

堺 吹奏楽部も高校生が使う時は、端っここの小さな部屋でぎゅうぎゅうになつてやつていました。

司会 何だか皆さん、すごく気を遣っていたんですね。まるで大人社会の新入社員みたい。

染葉 それです！新入社員(笑)。

（勉強合宿、修学旅行、 楽しい思い出がいっぱい！）

司会 今日は水谷良治先生が作った思い出ムービーを見ていただきましたが、中学3年間で記憶に残っている

思い出を教えてください。

堺 ムービーを見て、あらためて先生に愛されていたんだなあと思いました。昔は携帯電話もないのに仕事をしながら作ってくれたわけですから。

原田 思い出ムービーはインパクトありましたね。水谷先生からも、他の先



恩師の水谷先生も座談会に合流。思い出ムービーに花が咲く

生からも愛情を受けて育てられたと思います。ほんと感謝ですね。

江馬 いま教師をしていて、つくづく当時先生たちがいろいろ工夫しながら、僕らのためにやってくれていたことはすごいなと思っています。

染葉 自分が教師になつて思うのは、初めての中高一貫生だからきつと先生たちも模索しつつ、大変だったんじゃないかと思っています。



毎日泥だらけになりながら部活動に明け暮れました。うれしい時も辛い時を共にした部活動の仲間は一生涯の宝物です。
(原田)

原田 毎年宿泊研修があつたこと、スキーに行ったことなど、たくさんあつたイベント

を水谷先生が毎年思い出ムービーとしてまとめてくださったことに感謝ですね。

染葉 ほんとね。西山寮での合宿がすごく楽しかった。

原田 みんなで勉強して、銭湯まで歩いて行つて、寝た部屋は3段ベッドだったね。

染葉 銭湯は商工会議所の近くで、いまの遠鉄ストアがあるところだったよね。

渭原 部活の合宿も西山寮だったよ。

江馬 中学の修学旅行がシンガポールだったんですね。僕、初めての海外旅行で、「ガムを吐き捨てたら捕まるよ」と脅され、文化の違いを教わつたことが印象に残っているかな。英語喋れなかつたけどマレーシアの学校へ行つて合唱したよね。

染葉 楽しかったなあ。初めてだし、先生大変だったでしょうね。

堺 ビュッフェの食事でも豪華で美味しかった。原田 今じゃ考えられないぐらい贅沢だったね。

渭原 贅沢といえば、教室からの眺め。教室からJRRのドクターイエローが時々見られたのが嬉しかったなあ。特権だね。

（西高中等部1期生としての 誇りをいつまでも！）

司会 初代というか1期生の誇りを聞かせてください。

原田 誇り、ありますね。レベルの高い環境に身を置いて、本当にすごい人たちがいっぱい世の中にはいるんだなあと思いましたから。



文化祭では各クラス色々なこだわりのHR展。年々クオリティーが上がっていく感じが中高一貫の強みだと感じました。
(染葉)

染葉 今でも仲良くしている友人は中高6年間で出会った人が多いですね。周りに採まれたとか引つ張られて成長できたと感じています。夫に「葉摘、自分の同級生自慢、しがちだよ」と言われました(笑) 堺 私は自分たちで築いてきた感がありますね。吹奏楽部では女子同士で意見をぶつけ合うし、先生とも揉めるし(笑)。自分の意見を持ち、どうしたら相手にちゃんと伝えられるかというディベートで鍛えられたことが、社会に出て役立ったと思います。

江馬 中高6年間通ったことで切磋琢磨し合って勉強できたし、本当にこの環境に育ててもらったと思う。高校のサッカー部では県大会に出場したし、選手権まで出たので部活はやり切ったという充実感があります。当時の部員とは今でも仲良く、1月2日によく初蹴りで集まるんです。夜に集まる時は、当時の試合のDVDを見ますよ。

渭原 サッカー部の中心メンバーだったから、江馬は。

江馬 中3になると高校生に混じって練習を合同でやり始めるんですが、中3が試合に負けた時、連帯責任を取らされ、僕ら高校生もみんな坊主になったんですよ。

染葉 あったあった！急に坊主が増えた時あったよね、そういえば。

渭原 野球部もバスケも坊主だったから。司会 今の時代じゃありえない「連帯責任坊主事件」ってことね(笑)。

堺 私、成績が良くなかったんです。弱音を吐いたら、世界史の大瀬裕市(高29回

中高6年間の絆は強い！



懐かしい中等部の教室にて



記念植樹

中等部入学の時、体育館の前にみんなで植えた記念植樹のシラカシの木

卒)先生が「大丈夫だから」と言ってお図書室に連れて行かれたんですよ。そして、世界のマンガっていうのを読めばいいよって言うてくれたんです。自分の家族でもないのに、私を信じてくれたことがうれしかったです。で、「私、アナウンサーになりたいんですよ」と相談した時も「うん、お前ならなれるよ。やってみな」と励ましてくれました。いま自営業ですが、落ち込みそうな時に先生の言葉が蘇ってきて、自分に自信を持つことに繋がっています。

原田 まだ35歳ですけど、中高の6年間で自分の根幹を作っている気がします。今でも信頼できるのは、まず中高の仲間が浮かんできています。環境が良かったから今の自分ができるんです。西高に入ることが大学に行くための通過点と考える人もいるかもしれないけれど、僕はこの6年が人生を決める大きな時間でした。いま学んでいる生徒たちも、これから学ぶ子たちも、全力で6年間で過ごして欲しいと思いますね。

染葉 勉強だけじゃない学びが得られるところなので、後輩の皆さんも頑張ってください！

My Episode | 中高6年間で培ったもの

社会人になって振り返る西山台での6年間の日々。頑張ったこと、夢やさまざまな出会いなど、今につながるエピソードを在校生に向けて綴ります。

高63
回卒



オーボエ奏者
神農広樹

西高時代●吹奏楽部



©NEW JAPAN PHILHARMONIC

1993年磐田市生まれ。千葉県在住。武蔵野音楽大学を経てドイツ国立トロツィンゲン音楽大学大学院卒業。公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団首席オーボエ奏者

小学校の時から在籍していたジュニアオーケストラ浜松に中等部に通う先輩が数多くいたことから、自分もそこで勉強したいと思いました。アンサンブルコンテストの全国大会に出場した時のことは、苦労したのでよく覚えています。また、演出や選曲、時間配分や構成、すべて自分たちで作り上げる定期演奏会は、私の原点の1つ。

演奏の上手さと同じくらい、聴衆に楽しんでいただく工夫の大切さを学びました。今も同じモチベーションで演奏会を準備しています。

私は演奏したらその瞬間その場で消えてしまう音楽に命を燃やしていますが、何に取り組むにしてもこの瞬間は今しかありません。好きなことが見つかったら限界まで取り組んでください。



高61
回卒



アートディレクター
映像作家
高橋まりな

西高時代●硬式テニス部



ドラマのポスター撮影のディレクションシーン

1990年浜松市生まれ。東京都在住。多摩美術大学 美術学部 情報デザインコース卒業。広告デザイン/映像制作会社を経て独立

中学3年生の1年間を、受験に追われない過ごし方ができるかとも思い受験しました。硬式テニス部の友人が、私の弱点克服のための改善点や練習方法を書いてくれた手紙を数年前に発見。すっかり忘れていましたが、その友人や他の人にもいっぱい支えられていたことに気づきました。何を選んでどう頑張ればいいのかかわからず、もどかしい高校時代でしたが、今頑張れば昔の自分にも未来の自分へも応援できるのでは、と好きなことに取り組んでいます。

私は丘の上の教室から眺める景色が好きでした。皆さんも今身近にある景色や場所、時間、音楽、本、何でもたくさん好きになると、この先ずっと自分の味方になってくれると思います。



制作したアニメーションのプレゼンテーション

高67
回卒



テレビ局勤務
野崎舞夏星

西高時代●柔道部

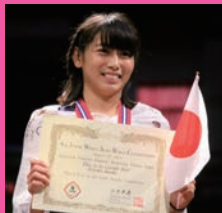


2022年北京冬季五輪を取次

1996年浜松市生まれ。東京都在住。立命館大学スポーツ健康科学部卒業。株式会社フジテレビジョン編成制作局編成戦略センター編成部配属

中等部から西高に通っていた兄から生徒同士が切磋琢磨する環境で文武両道が叶う学校だと聞いていたので選びました。所属していた柔道部で中等部時代は部員が学年で1人しかいない中、最後の中体連に、受験を控える高校の先輩方も応援に来て下さったことは今でも思い出に残っています。柔道部で活動する傍ら、相撲とレスリングにも打ち込み、宿題に追われる6年間を送ったので、ちょっとやそっとのことではめげない性格になりました。高校3年で相撲において目標の世界一を叶えた経験は、今でも自信となっています。

在校生の皆さん、辛いこともたくさんあるかと思いますが、浜西での経験は必ず皆さんの未来につながっていきます。



女子相撲で世界選手権優勝

高62
回卒



システムエンジニア
浅野祐之進

西高時代●バスケットボール部



1992年浜松市生まれ。神奈川県在住。早稲田大学創造理工学部経営システム工学科卒業。日鉄ソリューションズ株式会社勤務

西高バスケ部だった兄の影響を受け、文武両道を目指して中等部を受験しました。中学バスケのスタート時はみんなほぼ初心者でしたが、中高一貫という環境を生かして上のカテゴリーと練習。強豪校を相手に静岡県準優勝まで上りつめたことが良き思い出です。

今の仕事で責任を力にして挑戦できるようになったのもバスケで得たものです。辛いこともたくさんあるかと思いますが、浜西での経験は必ず皆さんの未来に繋がっていくと思います。部活やクラスの仲間とのつながりを大事にし、後悔のない学校生活を送ってください。そして、卒業後も西高とのつながりを持つことをおすすめします！私の一番の幸運は、同級生の妻と出会えたこと(笑)。

仕事の傍ら
YouTubeにも挑戦中!
(OFF.BALLERで検索)



高60
回卒

ピアニスト
臼井秀馬

西高時代●弦楽部



1989年磐田市生まれ。神奈川県在住。桐朋学園大学を経てザルツブルグ・モーツァルト大学卒業

優秀な人々を多く輩出した歴史ある西高に中等部が併設されることを知り、自由で楽しそうな校風に興味が湧きました。中1で初めて見た彩西祭に感動!あの熱気が強く印象に残り、いま仕事でいろいろなイベントに参加しています。体育祭のリレーでバトンを渡す相手が陸上全国1位の先輩スター選手だった時は緊張しましたが、イメトレを何度も行い役目を果たす事ができました。緊張に打ち勝ったあの瞬間を思い出し、今でも本番前はよくダッシュをします。

様々な機会の中で、同窓生の各分野での活躍を知ることがあります。新たな出会いでは出身校の話をするのが楽しみの一つ。西高在学生の方々にもいつかお会いできたら嬉しいです。



大好きな体育祭!

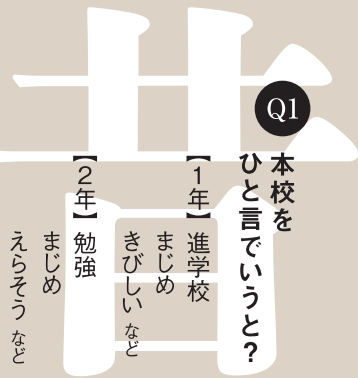


彩西祭でバンド!

虹色の人生観を抱きながら文武に励む西高生たち

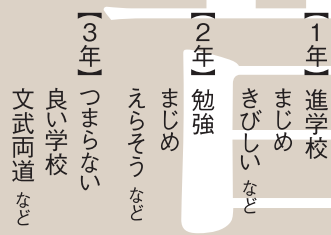
時代は流れ、高校生たちの思いにも変化が見られます。1990年では大人への不満やリクエストが多くを占めていましたが、2024年では感謝の言葉が目立ち、家族や教員との距離も近くなっています。運動部と文化部の互いへの一言も、相手の活動を認め尊重し、励ましの言葉がかけられています。一方で、変わらないものがあります。理想のHR像や勉強や将来に悩みを持っている点です。将来を見据え励む西高生ならではの特徴でしょうか。また、「心を開いて話せる友人がいますか」では、いずれも高1から高3まで「はい」に多くの回答があり喜ばしいことです。

中等部ができ、今は6年をかけて、じっくり人間関係を作っていく環境にあります。これが西高を卒業しても変わらない、同窓生としてのつながりになっていくと思うと、これからの100年もきっとすばらしいものになっていくでしょう。



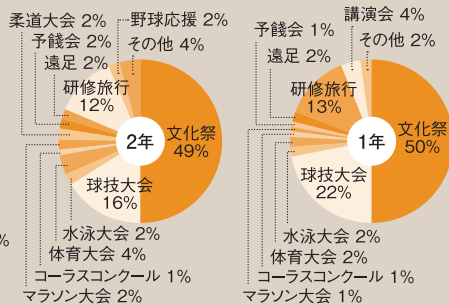
Q1

本校を
ひとりでいうと？



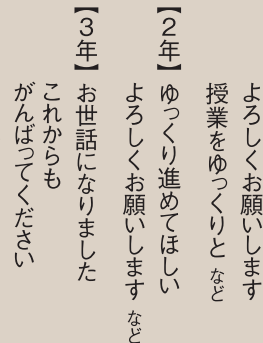
Q2

西高の行事の中で
何が一番好きですか？



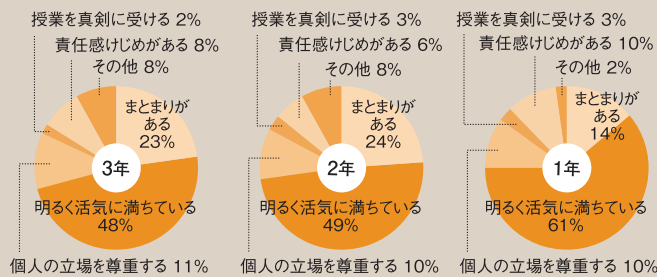
Q5

先生方に一言



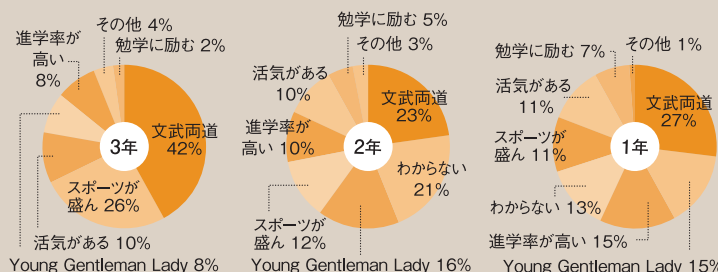
Q6

あなたの考える
理想のHRは
どういうものですか？



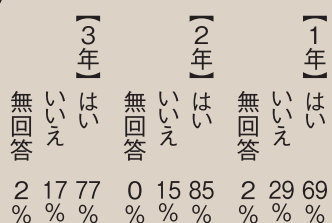
Q7

西高の良い伝統は
何だと思いますか？



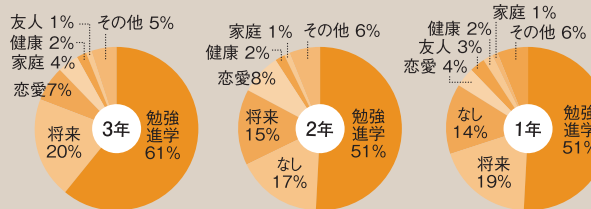
Q8

心を開いて話せる
友人はいますか？



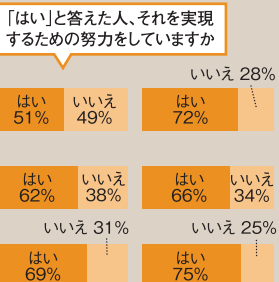
Q9

今いちばんの
悩みは？



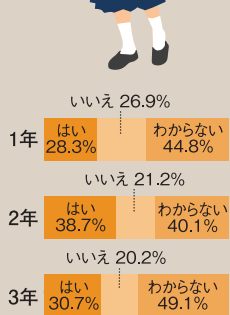
Q10

将来の夢を
もっていますか？



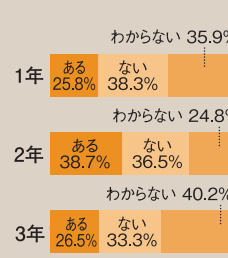
Q11

あなたは責任感が
あると思いますか？



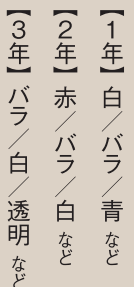
Q12

あなたは根性が
ありますか？



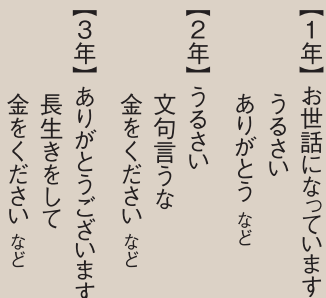
Q13

あなたの人生観は
何色ですか？



Q14

親にひと言



1990年の生徒アンケート集計結果は、浜松西高等学校生徒会発行「望洋」第35号、特集1-現代西高生気質'90から一部を抜粋したものです。

Q1

本校をひと言でいうと？

【1年】いいところ

活気がある

個性的

坂

山

など

【2年】景色がいい

個性的

古い

坂

まじめなど

【3年】個性的

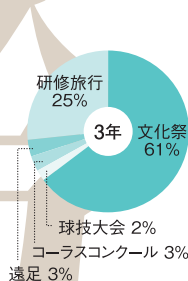
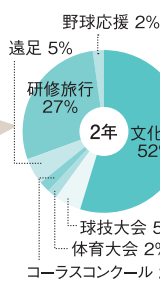
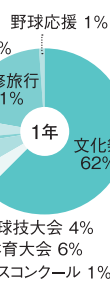
坂

知仁勇

伝統がある

まじめなど

Q2

西高の行事の中で
何が一番好きですか？

Q4

運動部の人から
文化部の人たちへ【3年】がんばれ
すごいなどお互いがんばろう
演奏会きてねなど【2年】がんばれ
おつかれさま体育大会期待しています
練習すごいなど【1年】がんばれ
おつかれさま文化部の人から
運動部の人たちへ受け継
“西高

今

生徒アンケート

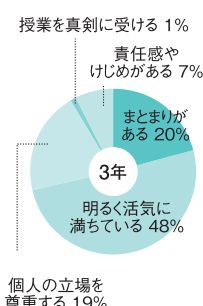
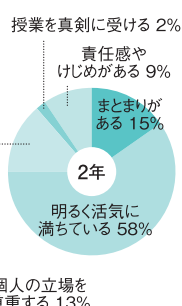
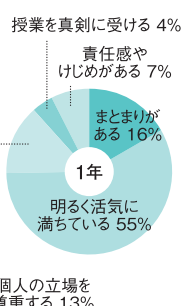
2024 ←

Q5

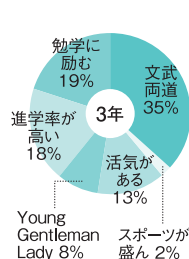
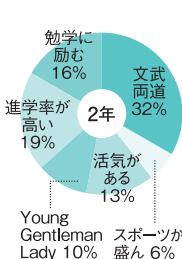
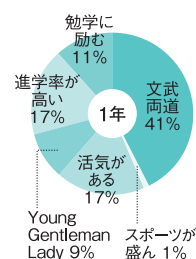
先生方に一言

【1年】ありがとうございます
課題減らしてなど【2年】ありがとうございます
迷惑かけてごめんなさい
寝てしまつてごめんなさいなど【3年】ありがとうございます
授業わかりやすい
授業中寝ていてごめんなさいなど

Q6

あなたの考える
理想のHRは
どういうものですか？

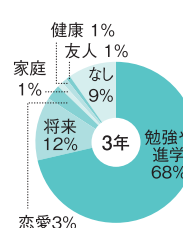
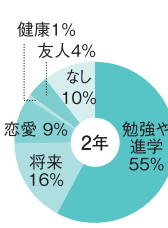
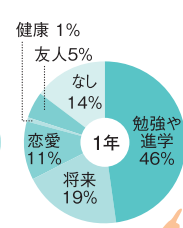
Q7

西高の良い伝統は
何だと思いますか？

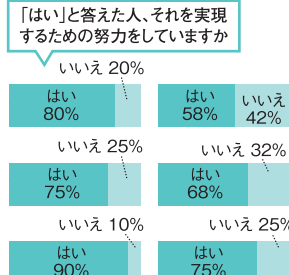
Q8

心を開いて話せる
友人はいますか？【1年】はい 78%
いいえ 7%
無回答 11%【2年】はい 89%
いいえ 3%
無回答 5%【3年】はい 89%
いいえ 3%
無回答 5%

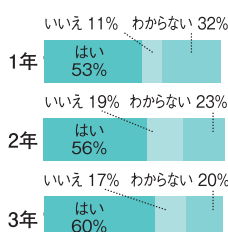
Q9

今いちばんの
悩みは？

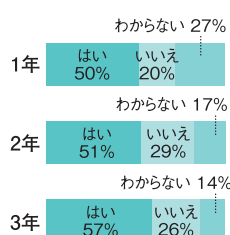
Q10

将来の夢を
もっていますか？

Q11

あなたは責任感が
あると思いますか？

Q12

あなたは根性が
ありますか？

Q13

あなたの
人生観は
何色ですか？

【1年】虹色/白/薔薇など

【2年】虹色/青/黄など

【3年】赤/虹色/透明など

Q14

親にひと言

【1年】ありがとう
迷惑かけるけどごめんなさい
これからもよろしくなど

【2年】ありがとうごさいます
親孝行します
大好き

【3年】ありがとうごさいます
迷惑かけてごめんな
反抗期もつすぐ終わりなど

2024年の生徒アンケート集計
結果は、2024年5月100周年
記念誌編集部が在校生を対象
に行ったものです。

新・スクールソング制作事業

100周年記念事業として、在校生から寄せられた詞をモチーフに本校卒業生の佐藤賢太郎氏へ新・スクールソングの制作を委嘱。記念式典のステージで佐藤氏の指揮の下、披露しました。

西山台の頂から
広がる空はなお高く
海の煌めきを瞳に抱いて
自分の夢を描くのだ
ハイザーハイザー 西高
ハイザーハイザー 西高
響け 高らかに
水平線の向こうまで
ハイザーハイザー 西高
ハイザーハイザー 西高
目指せ 晴れやかに
天の高みのその先を

西山台の頂から
舞い上がれ 舞い上がれ
知・仁・勇の翼を広げ
ハイザーハイザー 西高
ハイザーハイザー 西高
響け 高らかに
水平線の向こうまで
ハイザーハイザー 西高
ハイザーハイザー 西高
目指せ 晴れやかに
天の高みのその先を



佐藤賢太郎氏 (高52回卒)

本校卒業後渡米。サンタモニカ・カレッジ音楽科および映画科を経てカリフォルニア州立大学ノースリッジ校音楽学部メディア音楽作曲科を卒業。NHK全国学校音楽コンクール課題曲の編曲やゲーム音楽の編曲も手掛ける

創立100周年記念ロゴマークの制作

創立100周年記念ロゴマークは、生徒の自由応募により制作しました。



○作者／尾上 舜さん(令和4年度卒業生)

○デザインコンセプト

「100」は校訓の「知・仁・勇 (ち・じん・ゆう)」を色で表現

「100」の「1」は、校章のペン先を表現

「100」の「00」は、無限のマークとDNAの螺旋構造を模し、

本校のDNAを未来に、永遠につなげていきたいという想いを表現

創立百周年記念ウェブサイトの制作

100周年を記念するウェブサイトを作成し、記念事業の進捗やイベント開催の様子などを公開。学校、同窓会、後援会、PTAの各サイトと連携して、同窓生と在校生が交流できる場となっています。

静岡県立浜松西高等学校創立百周年記念サイト

URL <https://nishiko100th.jp/>



■主なコンテンツ

- ① 記念事業実行委員会(実行委員長・同窓会会長、後援会会長、校長、PTA会長)からのメッセージ
- ② 記念事業協賛金募集の案内
- ③ 記念式典の開催、新・スクールソング制作事業、浜松西高海外フィールドスタディ支援事業の紹介
- ④ 100周年記念ロゴ・スローガンの紹介
- ⑤ 浜松西高100年タイムライン／西高の歩みを写真で紹介

浜松西高 海外フィールドスタディ支援事業

海外フィールドスタディは、その国の文化や熱気を肌で感じ取ることで、「社会貢献への高い志を持つ、国際社会のリーダーとして輝く人材の育成」を目的に、100周年を機にスタートした人材育成支援事業です。

静岡県西部地域から海外進出している企業の現地法人を訪問し、現地の人々との交流を通して、映像や報道の情報だけでなく、企業が現地でどんな貢献をしているのか、どんな苦勞をしているのか、自身の目と耳とコミュニケーションを通じて肌感覚で知る海外研修です。



現地企業の視察、バンコク市内の観光、アユタヤ市内の観光、現地の学校訪問

○タイ王国・海外フィールドスタディを終えて

2024年度の高校2年生が、7月21日(日)～26日(金)3泊6日の日程でタイ王国を訪問しました。生徒20名、引率4名、計24名の訪問団で日本を出発。タイ王国では浜松いわた信用金庫の現地駐在事務所の支援を受けながら、遠州地区からタイへ進出した現地企業の事務所・工場を訪問しました。今回の訪問先は(株)アツミテック、(株)ESP、エンケイ(株)、(株)クレストック、スズキ(株)、(株)ミヤキの現地企業で、駐在員や社員の方々から熱心な説明や講義を受けることができました。各企業の方々には大変お世話になりました。

また、タイ進出企業の現地駐在員の方々との夕食会や泰日工業大学生徒との交流、バンコクやアユタヤ市内観光を実施するなど、生徒にとっては非常に充実した研修となりました。今後10年以上継続予定の海外フィールドスタディですが、初回としては、良いスタートが切れたのではないかと考えています。

浜松西高海外フィールドスタディ支援事業

担当●同窓会副会長・薩川敏、事務局・清水孝彦

記念式典の開催

2024年11月14日、アクトシティ浜松大ホールにて、創立百周年記念式典を開催しました。在校生や卒業生など約2千人が集うなか、同窓会会長の斉藤薫氏のあいさつ、持山育央校長の式辞、生徒会長の新居凜花さんによる決意が述べられました。また、卒業生の佐藤賢太郎氏が手掛けた新・スクールソングの披露、タイを訪ねた生徒による「海外フィールドスタディ」の活動報告も行いました。

式典に続く記念講演では、卒業生で後援会会長を務める鈴木俊宏スズキ社長が自社の歴史やインド進出について語り、国語や英語を学ぶ大切さとともに「やらまいか精神で世界に挑戦してほしい」と呼びかけました。



会場となったアクトシティ大ホール



同窓会会長・斉藤薫氏のあいさつ



記念講演を行ったスズキ社長・鈴木俊宏氏



海外フィールドスタディの報告をする生徒

100周年記念誌の制作

創立100周年記念誌は、卒業生には感謝の意を示すこと、在校生には将来へのエールを送ることを趣旨に同窓会、後援会、浜松西高、PTAが企画・編集・発行しました。西高100年の歴史をリアルに楽しめるよう、各世代の卒業生に登場をしていただきました。

編集長より

令和6年2月13日の第1回の編集会議から11回と回を重ね、同志12名が同窓会館に集まり、「読んで楽しい100周年誌、これからの100年へのメッセージ」を構想に記念誌の制作をさせて頂きました。日々忙しい中、多くの先輩、後輩に取材協力を頂き、輝ける未来の西高が見えてきました。また、慣れない作業、仕事を終えてからの作業にも関わらず、見事にやり遂げた編集委員のメンバーに感謝、感謝です。西高が益々好きになりました。(高22回卒・小田木基行)



記念誌の編集作業を通じ、素敵な先輩たちや元気な後輩たちに出会えたこと、100年にわたり受け継がれてきた西高愛と西山魂に触れ、感動しています。

編集後記

●創立50周年を迎えた時代に在学だった私が今回、100周年のお手伝いをするようになったのも不思議なご縁。当時なんの思い入れも感慨もなかった卒業生から西山魂のバトンを受け繋げてくれた後輩達へエールを贈ります。ハイザー西高ハイザー西高! フレOh! Oh! (高26回卒・土屋公良)

●高4回卒の大先輩4名の座談会から先輩方の母校に対する熱い思いを直接感じる事ができ、さらに90代の凄まじいパワーもいただきました。ありがとうございました。我々も後輩たちに母校に対する思いをしっかりと伝えていきます。(高29回卒・内山正吾)

●浜西百年の歴史の中でも最大の転換期が、併設型中等部の設立です。大きな期待と不安を抱えながらスタートした一期生も35歳になり、世の中で中核を担う年齢に。今回の対談を通して西山魂が、脈々と引き継がれていることに安心、まさに「こる力の偉大なかな」です。(高29回卒・筒井計臣)

●2024年1月1日能登半島で大きな地震が発生。9月24日同じ場所で豪雨災害。「もう無理だ」と呟く人に「これ食べて」「ありがとう」。柔道部とテニス部に所属していましたが、頑張れという言葉より、寄り添う仲間が何よりの支えになると再認識しました。(高39回卒・岩淵江江)

●100年後の記念式典は、今日参加した皆さんが、記念講演をするのですね。100年後、また会いましょう。(高39回卒・鈴木利幸)

●かつてのアンケートは紙を配布し、回収、集計…全校生徒となるとかなり手間のかかる作業でした。今では生徒の端末へ一斉に配信し一斉に回答集計が可能に。日々の作業が機械で短縮される時代になっても、高校生は毎日が忙しそう。仲間と過ごすかけがえのない時間。大切に…。(高42回卒・高橋智)

●本活動は、数多くの印象的なエピソードや母校の絆を感じる貴重な時間でした。この一冊が多くの卒業生にとって懐かしさとともに、浜松西高校を卒業した誇りを感じ、未来への原動力を与えるものになることを願っています。(高47回卒・小杉哲康)

●部活動は名前を確認できるだけで運動部が22部、文化部が62部あり、文化部は名前を変えながらもずっと続いてきた部もあります。しかし活動内容が分からない部も多く、西高新聞や望洋、同窓会報、過去の記念誌、アルバムからTOPICSを厳選して掲載いたしました。(高49回卒・北岡美子(旧姓三森))

●偉大な先輩たちの座談会を担当。失敗をそのままにしておけば失敗。それを活かせば成功。成功だけでは、何で成功したかが分からない。失敗を恐れず、逆境から学ぶことが大切。現役の生徒に向けての激励のお言葉でしたが、とても心に響きました。(高51回卒・内藤仁美)

●私は部活動100年の変遷を辿る中で、西高生が時代の移り変わりとともに形を変えさせながら躍動する息吹に触れることができました。長い旅でしたが、同級生と資料室に籠り夜遅くまで行った編集作業は私の一生の宝物です。ありがとうございました。浜松西高万歳!(高56回卒・杉山優)

●今回、微力ながら100周年記念誌の作成に携わる中で、改めて浜松西高校の歴史や伝統を再認するとともに、大変貴重な機会をいただいたこと感謝申し上げます。また、同じ西高生であった弟の思いにもふれることができ、素晴らしい経験となりました。(高56回卒・浅野慶太郎)

浜松西高に、栄光あれ

実行委員長／同窓会会長

齊藤 薫(高23回卒)

先輩方が頑張ってきたおかげで、浜松には工業・医療・福祉など最先端の産業があります。
同窓会としては、大学へ行く前に世界で活躍する浜松の企業を知って見識を高め、
地域を支えるリーダーが西高から育ってほしいと願っています。
浜松から世界に向けて発信し、グローバルに活躍できることを忘れないでください。



校長

持山 育央(浜松西高 第25代校長)

東坂は「知」の坂、北坂は「仁」の坂、西坂は「勇」の坂。
毎日、西山台の学び舎へ坂をのぼって通うなかで、足腰と精神を鍛え、西山魂を養っています。
中高一貫で6年間学ぶ生徒と、高校から入る生徒の新しい良き風が吹くことで
互いに切磋琢磨し高め合い、さらに成長する姿に感動を覚えています。



後援会会長

鈴木 俊宏(高29回卒)

今はグローバルな視点で生き方を考える時代。失敗を恐れず世界にチャレンジしてほしい。
それが西山魂であり、やらまいか精神であると思います。
海外フィールドスタディを通して、日本を見つめ直すこと、
海外の人達との交流を通して世界を広げてくれることを期待しています。



PTA会長

松本 力洋(高46回卒)

西高愛は卒業後に深まっていくもの。西高PTAでは大学現役合格生の体験を保護者から聞く会や
地域貢献および地域で活躍されている方にお話していただく会を開催するなど、
生徒と保護者の皆さんを支え、つなぐ活動を活発に行っています。
挫折を自信に変えて、国内外で活躍する卒業生が増えることを願っています。



静岡県立浜松西高等学校
創立百周年記念サイト



静岡県立浜松西高等学校
同窓会サイト



静岡県立浜松西高等学校・
同中等部ホームページ



[企画・編集・発行]

静岡県立浜松西高等学校創立百周年記念事業実行委員会

浜松西高同窓会事務局 Tel.053-456-0662(火曜日 9:00~12:00) / Mail.hama24@hamanishi.org

2024.12.27発行